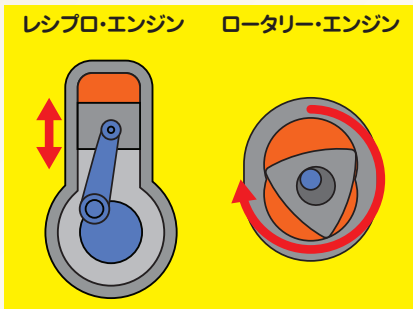


「つまり、エンジンというのは何のことだい？同じ工場で製造されても個々に周波数が違うというのは解つたけど……」ウイザットは聞き慣れない単語をスルーし切れずにいた。

「おう、そうじゃった、すまん、すまん。君達はエンジンを知らないのじゃな」マグワートは小刻みに数度頷き、続けた。「エンジンというのは、Internal Combustion Engine (略して、車等の乗り物に搭載されていて、そうじゃな、馬で言えば心臓に当たるかな)「心臓?」「そうじゃ。そしてオイルが血液。ガソリンが栄養……」なんだ、車って生き物なんだな」ウイザットが言葉を挑む。「ははは。そうじゃな。実際に生きてはいないが、ワシは車にも魂は宿っていると思っておるぞ」

「オイル?ガソリン?」今度はマジヨリアルが言葉を挑む。「オイルは主に、エンジン内部の摩擦の軽減の為に潤滑や気密性の向上、エンジン各部の冷却、エンジン内の洗浄、の為に必要な液体で、これとクーラント液が無いとエンジンが焼き付いてしまい、ガソリンはエンジンを動かすエナジー源となる液体のことで、化石燃料である原油から異物を取り除き出来た石油を更に精製したもので、ガソリンが無ければ車は動くことが出来ないんじやよ。車のエンジンには主にレシプロ、つまりシリンダーという筒の内部に空気と酸化したガソリンを取り入れる吸気、それをピストンというもので

圧縮、スパークプラグからの火花で爆発させてその力を動力とし、爆発の残りカスを排気する、という4工程を繰り返すことで動いているものと、ロータリーというピストンの代わりにロータリーという三角形のものが内部で動いて同じ様な働きをするものがあるんじや。最近ではガソリンの代わりに植物資源からのバイオエタノール燃料や、ハイブリッドというエンジンと電気モーターを併用している車も登場



しておるのう。いずれにしても、ガソリンを入れなければ車は活動を開始出来ないんじや。水と空気で走る車も開発中らしいがのう」

2人はマグワートの説明にボカんとした顔で無言で座っていた。その様子にマグワートは「まあ機械的な話はここ迄として、車というものは可能性の塊であるとも言えるわな」と話の方向性を変えることにした。「可能性の塊?」「そうじゃ。まあ、これは車に限ったことではないが、例えば車はガソ

リンを入れないと動かない。コンピュータも電源を入れないと使えない。そこに存在していても、ガソリンや電気が無ければそれは単なる物でしかない。しかし、ガソリンを入れエンジンを始動させたり、電源を入れコンピュータを起動させれば、それが便利なツールとなる訳じや。道が続く限り車で何処までも行ける。知らない街に旅をして、そこで貴重な経験をすることも出来る。コンピュータを使って情報管理や遠方の人との交流、買い物だって出来る。故に車もコンピュータも可能性の塊と言えぬ訳じや」「ふうん」2人は少しか話に付いて来た様に見えた。そこでマグワートは更に言葉を続けた。「ワシら人間も可能性の塊じや。人生には様々な可能性の扉が潜在的に存在し、開ける扉によつての未来に繋がるか、その可能性は無限とも言える」

「そうかなあ、自分が明日何をしているか、大体解るけどなあ」ボソッとウイザットが言うと、「そうでもないわ。だって、私、自分が記憶を失くして、しかもどうやら違う世界に迷い込んでしまった様だけだ、そんなことが起きるなんて数日前迄は思いもしなかったですもの」とマジヨリアルが言った。

「確かにルーティンな毎日がある期間続くこともあれば、急激に人生が変わることもある。運氣には波というものがあつてな」言い返す言葉を捜しているウイザットの代わりにマグワートが答えた。

つづく

チャネリング相談

Q 部屋の中に異様なエナジーを感じます。飼っている猫も怯えている様です。夏は「地獄の釜の蓋が開く」とか言いますが、うちに何か悪い霊が来ているのでしょうか。浄化が必要ですか? (Alhambra 在住 Rさん)

A 辞書や伝承により違う解釈もありますが、本来「地獄の釜の蓋が開く」という意味は、1月とお盆(宗派により7月と8月どちらか)の15日は(16日の場合もあり)、地獄の鬼も罪人の呵責を休み、罪人を煮る釜の蓋も開けたままになるから、皆さんも休みましょうという意味であった様ですが、それが転じて、あの世の蓋が開いてご先祖様が戻って来るといふ風習となった説、または、お盆という習慣は中国の孟蘭盆経から来ているという説もあります。

*孟蘭盆経というのは、仏教の考え方である六道の内、餓鬼道に落ちてしまった自分の母をどうしたら助けることが出来るのかと、助言を求めに来た目連に、釈尊が、百味飲食五菓(沢山の食べ物や飲み物やお菓子)を供えることで救われる、と教えたという逸話が書かれている経典。

また、六道とは、天道(天人の世界)、人間道(人間界)、修羅道(阿修羅の世界=争いや怒りの絶えない世界)、畜生道(畜生の様に本能で生きる世界)、餓鬼道(飢え渴きに苦しむ世界)、地獄道として、仏教では迷いのある者が輪廻する世界とされている。

それで、Rさんのお宅に来ているエナジー体ですが、地獄の釜の蓋が開いていることと関連しているかいないかは別として、時に時期に関係なく、その様な存在が家にやって来てしまうこともあります。

そんな時には、拍手を打つ、高い音のベルや鐘・鈴を鳴らす、ホワイトセージ(なければ Nag Champa のお香)を焚く等してお部屋の浄化をして下さい。

詳細は魔女ともえの書籍「地球に生きる宿命を光に変えて」にも載っております。ご参照下さい。